別紙様式1

令和4年度　学校評価表

（ 中間・最終 ）　　学校名　三原市立第三中学校　　校番（　3　）

a 学校教育目標	仲間とともに輝け三中 ～果敢に挑戦する生徒の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 社会や世界の状況に対応し，よりよい社会を創るために挑戦する生徒が育つ学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10 月 h 達成値	2 月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	○資質能力ベースの学びが展開され，生きて働く力が育まれる。 ○豊かな表現力と協同性が育まれる。	○学力調査において，単年度で全国平均比較で3ポイント向上させる。 ○批評的思考力や相手意識を持った表現力（パブリックスピーキング）を向上させる。	○学習者基点の能動的で深い学びにつながる校内授業研究の充実 ○第三中学校区学力向上プロジェクトによる小中連携及び，結果にコミットできる授業改善 ○第三中「授業づくり徹底5項目＋パブリックスピーキング」を全ての授業で実施 ○基礎学力を培う学力向上学習（GK），家庭学習の充実とともに，知識を活用する場を設定 ○情報端末機器を活用した個別最適な学びの推進	・学力調査における年間全国比の伸び率 ・授業交流週間の実施 ・教育研究推進に係る校内研修実施 ・第三中学校区学力向上プロジェクト推進委員会の実施	3P 3回 6回 3回	2.9P 2回 18回 0回		97% 100% 300% 0%	B A A D	・全国学力学習状況調査において，全国平均は下回っているが，昨年度比2.9P改善した。記述問題の無回答率も前年度より6.7P改善した。 ・全体，教科毎，学年毎の授業研究会は計画通り実施し，目標値を上回っている。指導案作成，事後協議を通じて，授業改善に取り組んでいる。 ・推進委員会は実施することができなかったが，校種間の授業交流を計画している。	・GKタイム等を活用した，知識・技能の定着と結果を授業改善に生かす。 ・記述式（思考・判断・表現）問題における無答率減少の取組を継続する。 ・深い学びに迫る授業研究に取り組んでいく。 ・授業交流等を通して，小学校と中学校の学力課題を共有し，改善を図る。	○			○学力がついています。校内研修の成果だと思います。結果が「授業が分かる」等に出ているのだと思います。 ○パブリックスピーキングとChromebookを使った学習が課題達成に与えた影響が見えると面白いと思います。
				生徒アンケート ①「授業がよくわかる」の質問に対する肯定的評価 ②「Chromebookを使った学習はよくわかる」	80% 80%	83% 87%		104% 109%	A A	・目標値を上回ることができた。 ・落ち着いて，授業に取り組む生徒の姿が多くみられるようになってきた。 ・授業内で，chromebookを使用する機会が増えた。 また，chromebookを使った宿題を出すなど，家庭学習においても使用する場面が増えた。	・単元のゴール，単元構成を工夫したり，振り返りを行うことで，学習意欲の向上，学習内容の理解につなげていく。 ・ICT支援員の活用や，ICTの研修に参加することで，ICTの使用方法の幅を広げ，分かる授業づくりにつなげていく。また，教員間でのchromebookの活用方法を共有化する。	○			
豊かな心・健やかな体	○積極的な生徒指導の充実～ピア・サポートによる親和性の高い集団づくり～ ◎小中連携の推進により，全職員が生徒指導を含む全ての教育課程で義務教育を見通せるようになり，結果，不登校生徒が減少する。	○全生徒が粘り強く，助け合うことができるようになる。 ○忍耐力（レジリエンス）の向上を図り，問題行動を減少させる。 ○不登校生徒を前年度と比較し，2/3以下とする。	○自主的・自立的な生徒会活動の推進 ・生徒が主体となる「三中チャレンジカップ」の実施 ・「学校生活のきまり」を改善する等，主権者教育の促進 ・縦割り集団によるピア・サポート活動の充実 ・自己肯定感が育まれる肯定的な評価 ○三中スタンダードの徹底及び質の向上 ・挨拶，返事，言葉遣い，無言掃除	・生徒アンケートにおいて 「学校が楽しい」 「友達と話し合い，考えを広めていける」 ・「学校生活のきまり」の見直しに係る生徒等を含めた協議	90% 85% 3回	94% 83% 2回		104% 98% 133%	A B A	・生徒指導委員会において，学校生活の課題を取り上げ，強化期間を設けた改善が図られた。 ・「学校生活のきまり」を見直すため，生徒総会で生徒会長から生徒参加の協議を行うことを説明し，告知した。 ・三中スタンダードの徹底が図れるように，月1回の生徒指導集会(Meet)を開催し，決まりの確認や三中スタンダードについて啓発を行った。 ・「生徒指導だより」を随時発行し，体制づくりを行った。 ・生徒が主体的に参加できるボランティアの機会を増やし，自治的な生徒会活動が実施できた。	・生徒が自ら立案できる「三中チャレンジカップ」を企画させる。取組に目的や意義を持たせることで，成果を肯定的に評価する。 ・三中スタンダードの徹底を図るため，生徒会からの啓発活動を計画，実施していく。 ・生徒会執行部の新旧交代を迎えることとなるが，活動の理念や方針を継続させ発展させる。	○			○目標値を超える取組がされているのは素晴らしいと思います。 ○主体的かつ積極的に生徒が取り組める裏には先生方の影のサポートがあると思っています。引き続きサポートをお願いします。 ○活動の継続を期待します。
			○広島県生徒指導サポート実践指定校の取組 ・生徒指導主事を窓口とし，学年主任を中心とした体制を構築 ・特別支援の視点による生徒アプローチの実施 ・不登校生徒とその他の長期欠席者に対する統一取組の徹底 ・不登校傾向を示す生徒の早期発見と迅速かつ適切な対応 ・関係機関との協働的な連携実施	・不登校生徒数の減少 100日以上の不登校数 30日以上の不登校数 完全不登校 ・教育相談委員会の開催	10人 17人 0人 10回	18人 27人 2人 6回		56% 62% － 120%	D C D A	・不登校生徒が増加傾向であり，教育相談委員会や生徒指導委員会，学年会等で原因の把握や改善に努めたが，要因が多岐にわたっている。 ・個別の支援について担任，学年を中心に検討し，教育相談委員会において再協議することで支援方法の具体化を図った。 ・月1回の教育相談委員会において「気になる生徒」を共有し取組方針を協議している。全教職員による共通認識にタイムラグが生じる場合がある。 ・関係機関との連携により実態に則した支援に努めた。	・各委員会の実施頻度を高め，個に特化した組織的な対応を深く協議し，早期対応と，心の内に迫る理解により，全職員で関わる。 ・「学校ふれあい教室」での学習が心の安定と個の成長につながる環境を整備するとともに，登校刺激を与える。 ・教室に位置付きにくい生徒について，関係機関との連携を継続し，細やかな支援を行う。 ・生徒支援研修を実施する。	○			○不登校の問題は，学校だけでは解決しないと思います。学校の努力，取組はすばらしいと思います。 ○繊細な課題に向き合い，連携して取り組んでいることがわかります。 ○不登校の増加は全国的に見られます。地道に方策ん継続をお願いします。
信頼される学校・働き方改革	◎働き方改革が推進され，学校教育力が向上する。	○行事の精選と学校組織力を向上させ教職員が生徒に向き合う時間を向上させる。	○行事の精選と定時退校日の完全実施 ○機能するカリキュラムマネジメントにより効果的な校務運営	・学校行事の規模縮小 ・超過勤務月60時間以内	3項目 70%	2項目 72%		130% 102%	A A	・コロナ禍の中対応もあり，2年生の修学旅行を1泊に変更し，教育研究を校内授業研究会に重点を置き，自主公開研究会を開催しないなど，行事の規模縮小を行った。 ・超過勤務60時間以内を目標に掲げ，定時退校の呼びかけを積極的に行うとともに，超過勤務の状況を職員で共有し，業務の分担等を見直した。	・生徒にとっての意義が実感でき，意欲が高まる行事の精選を図る。 ・働き方改革推進に向けて，計画的に業務を進められるよう，実施した行事の直後に成果と課題を明確にし，次の行事に反映させる。	○			○三年生をリーダーとした全ての生徒が輝く学校行事を，中学校教育の特色として，充実させてください。 ○安心できる環境づくりがされていると感じました。 ○タイムリーな情報発信を継続してください。
	○通いたい・通わせたいと感じさせる学校を創る。	○普通学級編成を各学年4学級編成とした，様々な縦割りの学校教育を実施する。	○小中連携を通して，小学生及び保護者，小学校教職員に信頼される学校づくり ○環境整備を推進し，美しい学校づくり ○生徒の自治的な活動を活性化する ○行事の充実 ・第3学年生徒をリーダーとした全ての生徒が輝く行事の実施 ○便りやHPを活用した学校教育の発信	・校区内の児童生徒の情報共有 ・主体的な学びに迫る校内研修 ・たより等による広報 ・ホームページの更新	月1回 6回 24回 月2回	月4回 3回 13回 月3回		400% 100% 108% 150%	A A A A	・月4回の小中連携を実施し，校区内の学校スタンダードの共通実施に向けての理解を深めることで，第1学年生徒がスムースに学校生活になじむことができた。 ・校内研修では，「本質的な問い」「単元を貫く問い」「本時の目標」を明確にすることで，主体的な学びにつなげていくことを再確認できた。 ・生徒の活動の様子を学校だよりで紹介したり，歳時記等でHPに積極的に掲載した。修学旅行では，すぐーるを使い，生徒の様子を随時発信した。	・校区内の学校スタンダードの徹底を図るため，小中連携をより密に実施する。 ・一人一授業研の成果と課題を共有し，学校全体で生徒の主体的な学びに向けた授業改善を進めていきたい。 ・今後も引き続き，三中歳時記など，生徒の活動の様子などをHPに掲載するなど，タイムリーな情報発信を工夫する。	○			

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。